

# 市長が行く

## マジヨリティ(多数派)への疑問

茂原市長 田中豊彦

No.23



最近、市長への手紙の中で目にすることが多いのが「子宮頸がんワクチン」の助成への要望です。浦安市やいすみ市では、ワクチン接種を無料化し実施、また白子町や長南町でも無料化を検討する方向で動いているため、「茂原市でも早く実施してほしい」との要望が増えていっているのです。子宮頸がんは、日本では毎年約8500人が発症し、約2500人が亡くなっています。死亡率30%。以前は40〜50代で見つかることが多かったのですが、今では20〜30代がもっとも患者数の多いがんになりました。

子宮頸がんの原因は、ウイルスの感染です。私たちの周りのどこにでもいる、いぼを作るウイルス(HPV)です。そのなかで、がんを起こす悪質な型が、代表的な16型、18型など、これまでに15種類が見つかっています。このウイルスは、性交渉などのときに皮膚から皮膚に感染し、女性の子宮頸部の上皮細胞に潜みます。アメリカでの調査で、全女性の8割が生涯に一度以上、16型や18型に感染していることが分かりました。ただ、感染した人すべてが、がんにな

るわけではなく、ほとんどは新陳代謝や免疫の作用で撃退されます。免疫力が落ちることでもがん化していくのです。今までは検診を受けて、早期発見をすることが一番の方法でしたが、現在、予防する手立てとしてワクチンが加わりました。日本では、16型と18型の感染をほぼ防ぐ「サーバリックス」が2009年に認可されています。これは合計3回の接種が必要で、その費用はだいたい5万円前後です。欧米と同じく日本でも、ワクチンの優先接種の年齢は11〜14歳の女子(主に中学生)とされました。ただ、このワクチンですべての子宮頸がんが防げるわけではないことも事実です。

私は、こうしたワクチンの接種の助成は本来国がやるべきことではないかと考えます。自治体ごとに差ができることは良いことではありません。現実問題として、財政が豊かな市や対象人数の少ない町村は予算がたてやすく、茂原市のように厳しい財政のなかでは、予算のやりくりが大変です。また、すべての人に強制して接種するものでもないように思います。

批判されることを承知で言えば、果たしてワクチンを打つことが本当に良いことなのだろうか?という疑問もあります。副作用等はほとんどないといわれてはいますが、はたしてそうでしょうか?先のことには誰にも分かりません。ここへきて急に子宮頸がんワクチンが騒がれ始め、それに踊らされているような気さえします。昨年、世界的に大流行した新型インフルエンザもワクチンが大量に輸入され、その後、その一部が廃棄されたという事実は、考えさせられる問題です。行政の対応がその場しのぎに終わることは決して許されることではなく、根本的にこのワクチンの効果がどうだったのか、何千億ものお金を使っただけのばいけないうことだったのかの検証が必要ではないかと私は思うのです。

大多数の人は、ワクチン接種に前向きです。でも、財政の問題または効果や安全性の問題等、実施することの判断はとて難しいことで、慎重にならざるを得ません。